

議員説明会 会議録

1 開催日時

令和7年10月29日（水曜日） 午前10時30分～午前10時55分

2 件名

花巻市養護老人ホームはなまき荘の廃止について

3 会議録

（岩間総合政策部長）

項目の二つ目、花巻市養護老人ホームはなまき荘の廃止について説明いたします。担当は福祉部長寿福祉課となります。

菊池福祉部長。

（菊池福祉部長）

本日は、花巻市養護老人ホームはなまき荘の廃止につきましてご説明させていただきます。

花巻市養護老人ホームはなまき荘は、昭和49年に花巻市において設置し、その運営を社会福祉法人大谷会が行ってきた施設でございます。

はなまき荘におきましては、これまで51年間にわたり様々な問題を抱え、自宅での生活が困難な高齢者を養護し、安心安全な生活を送ることができるよう支援してまいりましたが、近年は入所者数の減少が続いている状況でございましたことから、入所者数の減少に伴う様々な影響を考慮し、この度、今年度をもって施設を廃止しようとする方針を決定したものでございます。

本日はその経緯等につきまして、ご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは、詳細につきましては長寿福祉課長よりご説明させていただきます。

（岩間総合政策部長）

大川長寿福祉課長。

（大川長寿福祉課長）

長寿福祉課の大川でございます。

それでは、私の方から花巻市養護老人ホームはなまき荘の廃止について説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。

最初に趣旨についてでございますけれども、部長が最初に申し上げましたとおり、はなま

き荘は入所者数の減少が続いているという状況がございまして、入所者にとって非常に寂しい環境となっていること、また、運営にかかる費用や施設の老朽化の問題など、はなまき荘の今後の運営の課題について総合的に検討を行いまして、指定管理者である社会福祉法人大谷会とも協議した結果、令和 7 年度末をもってはなまき荘を廃止する方針としたものでございます。

1 ページの下の方に参考として記載しておりますけれども、はなまき荘などの養護老人ホームは、老人福祉法に基づく施設で、環境的な問題や経済的な理由から自宅での生活が困難な高齢者を、市町村が措置によって入所を決定するという施設でございます。これに対しまして、市内に多くあります特別養護老人ホームや老人保健施設、認知症高齢者グループホームなどは、介護保険の適用になる施設で、介護や医療を必要とし、自宅での生活が困難な高齢者が直接施設と契約をして入所する施設となっております。それから、サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、軽費老人ホームは、基本的には自立した生活が送れる高齢者、または部分的に介護を要する高齢者が直接施設と契約して入所する施設で、必要に応じて生活支援ですとか、あとは身体状況に合わせたサービスを受けられる施設となっております。

続きまして、資料の 2 ページをご覧ください。3 の養護老人ホームの入所状況等についてですけれども、(1) がはなまき荘の入所者数の令和 2 年度からの推移となっております。はなまき荘は定員 50 人の施設ですけれども、空床がある状況が長く続いておりまして、令和 7 年度は、入所者 17 人でスタートしましたが、現時点の入所者数は 10 人となっております。

その下の (2) は花巻市が養護老人ホームに入所措置している人数の推移ですけれども、令和 7 年 4 月 1 日現在の人数は 40 人で、措置者数は年々減少しているという状況がございします。

その下の (3)、こちらは県内における養護老人ホームの入所者数の推移でございします。県内の養護老人ホームは、はなまき荘含め全部で 17 施設ありますけれども、令和 7 年 4 月 1 日現在の入所者数は定員が合計 934 人に対し 832 人で、入所率は 89.1%となっております。岩手県全体の推移を見ましても、養護老人ホームの入所者は減少傾向にあるということがわかります。

この養護老人ホームの入所者が減少している理由についてでございますけれども、介護保険制度において、まずサービスの充実が図られてきておりまして、在宅で支援が受けられるサービスが増えたために施設に入所しなくても生活できる環境が整ってきたということですので、サービス付き高齢者向け住宅、それから有料老人ホーム、軽費老人ホームなど入所先の選択肢が広がったということが要因と捉えております。

次に資料 3 ページ、4 のはなまき荘の運営状況をご覧ください。はなまき荘の運営費用につきましては、指定管理者である社会福祉法人大谷会に委託料という形でお支払いをしております。委託料の算定にあたっては、国の基準に基づきまして、入所者数に応じて算定し

ていたところですが、入所者数が減少してきたことで、かかる運営費用に対し、委託料が不足するという状況があったために、令和4年度以降については、入所者数の減少による運営費用の不足額を市の方で補填してきたというところでございます。

続きまして、このはなまき荘の運営方針検討の経緯についてでございますけれども、本市においても入所措置が減少しているという状況があったことから、市内の別法人が運営する養護老人ホームの安定運営を考慮しまして、新規の入所措置については、まずそちらの方を優先して行ってきたという状況がございまして、公設であるはなまき荘の入所者数の減少が続いたということになっております。そのために、はなまき荘の運営の継続が難しくなっている状況がございまして、これまでも施設の廃止ということも想定しながら、今後のあり方について大谷会と協議した経緯がございましたけれども、指定管理期間が今年度末、令和7年度末となっております。今年も年度当初は入所者数も一定数おりましたことから、今年の5月に市の方としては、引き続き運営を継続する方向で大谷会との協議を行ったところです。

その際に大谷会の方からは入所者は話し相手も少なくとても寂しい生活を送っているということですか、最後の1人2人まで施設を継続できたとしても、果たしてそれが入所者にとって望ましい環境なのか、職員も入所者が減少していく状況に不安を感じている、などのお話がございまして、今年度末での閉所ということも検討してはどうかとのご意見をいただきました。大谷会の方では、何よりこの入所者の置かれている環境というのを非常に心配されておまして、人数が少ないことで交流活動ですか、季節の行事もできることが限られてきていて、本当にお気の毒な状況があるということを伺いましたので、市といたしましても、この状況を踏まえて、今後ますます入所者が減った場合の委託料の増加ですか、施設運営を継続するために必要となってくる施設の長寿命化に今後どの程度の費用が必要になるかなども合わせて総合的に検討した結果、施設を廃止するという方針になったものでございます。

廃止の時期につきましては、現在入所されている全ての方から同意をいただいた上で決定することといたしまして、今年の7月から8月にかけて入所者、それから親族等への説明を行った結果、全ての入所者さんにご了承いただけたことから、今年度末の廃止としたところです。

入所者の今後の生活の場についてでございますけれども、入所者及び親族等への説明をした際に、もしはなまき荘を閉じるということになった場合の転居先について、ご希望を伺っておりましたので、入所希望先の施設の方と相談をしながら順次措置替えということで進めていく予定としております。

このはなまき荘の廃止に伴って、措置替えが必要な入所者数は12名おりましたけれども、すでに10月に2名の措置替えを行っておりまして、あと残る10名のうち5名の方は同じ市内にあります養護老人ホーム宝寿荘、それから3名の方は雫石町にある松寿荘、そして2名が奥州市にある寿水荘の方に措置替えをする予定としております。

最後に今後の進め方についてですけれども、11 月にはなまき荘のある湯口の山根地区を中心とした地域への説明を行いたいと考えております。そして、12 月には市議会定例会において花巻市養護老人ホーム条例を廃止する条例を提案させていただく予定としておりまして、年明けの 2 月に岩手県に対し、廃止ということで届け出を行った上で、3 月 31 日をもって花巻市養護老人ホームはなまき荘を廃止する予定としているところです。

以上で説明の方を終わります。どうぞよろしくお願いいたします。

(岩間総合政策部長)

説明が終わりました。このことにつきまして、ご質問等ございましたら挙手の上発言をお願いいたします。

内館桂議員。

(内館桂議員)

説明ありがとうございました。何点かお聞きいたします。

養護老人ホームはなまき荘の利用状況については、従来から利用者が減っていると、そういう話を聞いておりました。ある方からはなかなか利用したくても、利用そのものの、入所判定そのものへのですね、判定が受け入れということにならないという声がありました。

そこでですね、こうした全国的に、あるいは岩手県内でもこう減ってきている状況と今説明ありましたけれども、県内 17 の養護老人ホームの中でですね、はなまき荘だけが突出して利用者が少ないという状況にあるんですね。で、これははなまき荘が、なんか特段にこう、目出ししているんじゃないかなって思う気がしております。

この辺のあたり、先ほどの説明と合わせてですね、本当に利用者がこの他のサービスに移行したというのが本当なのかどうか、この辺もういっぺんご説明いただきたいと思います。

(岩間総合政策部)

菊池福祉部長。

(菊池福祉部長)

お答えいたします。まず一点目ですけれど、養護老人ホームの入所を希望してもなかなか入れないというお話がございましたが、養護老人ホームは先ほどご説明したとおり、住居の状況が悪い状態にあつたり、家族から適切な養護が受けられない、例えば虐待であるとか、そういったこともございます。そういった状況の方が市町村の措置により入所するものでございますので、希望したからといって条件に合わなければ入れる施設ではございません。市の担当の方では、同じ入所基準に照らし合わせて相談に対応してきましたので、現在においても、その対応は変わらないものでございます。

2 点目、はなまき荘の空き状況が県内の養護老人ホームに比べて突出しているということ

につきましては、実際数字上はそのとおりでございます。説明にもありましたけれども、花巻市内には、2か所の養護老人ホーム、合わせて110名の定員がございます。これは、県内の市町村に比べて多い数字となっておりますし、県内には、17の養護老人ホームがございますが、はなまき荘を除く16の施設につきましては、社会福祉法人が設置運営しております。はなまき荘だけが公設民営という形になってございますので、花巻市において措置する方につきましては、やはり先ほど説明したとおり、市内に宝寿荘がございますので、そちらの方に空きがある状態であれば、まずそちらの方に入所させてきたということがございまして、結果的に、はなまき荘の空きが多くなってきたという状況でございます。

（岩間総合政策部長）

内館桂議員。

（内館桂議員）

今の説明でですね、はなまき荘の指定管理の関係で、令和7年度末で終了ということですよ？で、何となくですね、令和3年からずっと見てみますとですね、年々入所者が減ってきている。指定管理の終了期間に合わせて減らしてきているっていうような見方もされるんじゃないかなという風に思います。

そこでですね、お聞きいたしますけれども、入所判定にかかってきた件数っていうのはどういう推移なのか、その辺の資料がないんですが、この辺を改めてお出ししていただければありがたいですけど、傾向としてどうなのか、その辺だけお聞きしたいと思います。

（岩間総合政策部長）

菊池福祉部長。

（菊池福祉部長）

入所する場合にあたりましては、入所判定委員会にかけて、その高齢者が養護老人ホームの条件に合致するかということを判断していただきます。その入所判定委員会にかけて養護老人ホームに入ることになりますが、待機者数はここ数年ありませんので、ここで回答させていただきますのは、年度ごとの入所者数と退所者数についてお話しさせていただきますけれども、入所者数につきましては令和2年度が7人、退所が11人。令和3年度が入所が6人、退所が9人。令和4年度が入所が5人、退所が11人。令和5年度が入所が2人、退所が13人。令和6年度が入所が6人、退所が8人、令和7年度は現時点で入所が7人、退所が9人となっておりますので、ここ数年間、同程度入所者がおります。入所者を減らすために人数を減らしてきたということは決してございません。

（岩間総合政策部長）

よろしいでしょうか。

そのほか、ございますでしょうか。照井明子議員。

(照井明子議員)

私以前ですね、知り合いが家族から虐待というか家を出ていけと言われて、それで住む家がないというご相談を受けて市役所に行きました。長寿福祉課にも行きました。その時に養護老人ホームはなまき荘に入れませんかという相談をしました。そしたらかなり要件というのが厳しかったみたいで、入れないですということで。もちろん家のある人ですので、家族から出てけと言われたけれども、自分の家があるので、公営の住宅は無理でした。

いろんなところをあたってみて、軽費老人ホームの方になんとか入れていただきました。けれども、やっぱりそういった様々な困難な事情を抱えた高齢者、これからもやはりあると思うんですね。

その時にやっぱり頼れるのは市なんです。市の方で的確に、迅速に、やっぱり対応していただけるっていうのは、こういう施設があるから、私は一時的に保護するっていう形でもできるのかなという風に思っておりますので、施設は閉所になるでしょうが、宝寿荘があるということ、あと他の一般の民間の介護事業所の関係の施設もあるということなので、そうした困っている高齢者に対しては、やはり迅速にですね、対応するっていうそうした基本姿勢は貫いていただきたいという風に思っているところです。

それで、本当に十分に施設は、はなまき荘が閉所されても対応ができるんですということでもよろしいですね。

(岩間総合政策部長)

菊池福祉部長。

(菊池福祉部長)

先ほどお話いただきました、困っている高齢者につきましては、長寿福祉課を中心に地域包括支援センターとも連携しながら、丁寧に対応してまいりたいと思いますし、急を要するような場合につきましては、一時保護という形で短期入所ということも実際行っておりますので、そういった中で高齢者の状況、状態を適切に判断し、支援してまいりたいと考えております。

(岩間総合政策部長)

そのほかございますでしょうか。

櫻井肇議員。

(櫻井肇議員)

はなまき荘の職員数はどうなっていますか。

(岩間総合政策部長)

菊池福祉部長。

(菊池福祉部長)

お答えいたします。今年度の状況でお話しさせていただきますと、正職員が 13 名、非常勤の職員が 15 名、合わせて 28 名となっております。

(岩間総合政策部長)

櫻井肇議員。

(櫻井肇議員)

閉所後のその方々の処遇と言いますか、どうなるものでしょうか。

(岩間総合政策部長)

菊池福祉部長。

(菊池福祉部長)

先ほど説明で申し上げました指定管理者は、社会福祉法人大谷会でございます。大谷会さんにおかれましては、特別養護老人ホームを 2 施設、その他にも保育園であったり、多くの事業をしていただいております。

はなまき荘にいらっしゃる職員につきましては、当法人の他の部署で引き続き働いていただくこと、また、パートの方々につきましては、年度の契約でございますので、この方々のご意向を伺って、そのご希望に沿うような形にするというように伺っております。

(岩間総合政策部長)

櫻井肇議員。

(櫻井肇議員)

先ほどの閉所の理由にありました。介護保険サービスの充実ということで、そちらの方へ支援が広がって減少傾向にあるということが 1 つの閉所の理由として挙げられたわけですが、それはこれからもおこるのかなと。つまり、民間の状況がどうなるか市のほうで把握しておられるかどうか分かりませんが、それがそうだとすると、この民間のところも今後減少していくということになるのかな。そこまでは掴んでおりませんか。

(岩間総合政策部長)

菊池福祉部長。

(菊池福祉部長)

養護老人ホームの入所状況につきましては、花巻市も今の説明のとおり減少傾向、岩手県内においても減少傾向、それが全国的にも同様の傾向で、養護老人ホームの入所者は減少が続いているという状況でございます。逆に有料老人ホームは増えている状況であり、有料老人ホームの中には低額で入れる老人ホームもかなりございますし、あとはサービス付き高齢者向け住宅といった施設も増えている状況になってございますので、やはり養護老人ホームへの入所者は減少していくものと捉えております。

(岩間総合政策部長)

その他ございますでしょうか？

ないようでございますので、2項目め、花巻市養護老人ホームはなまき荘の廃止についての説明を終了させていただきます。

以上、本日の2項目についての説明が終わりましたので、本日の説明会をこれにて終了させていただきます。ありがとうございました。